

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成13年3月18日 14時30分～16時55分)

注意事項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味2時間25分である。
2. 試験問題の持帰りを認めない。
3. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) 各問題にはaからeまでの五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを一つ選び、次の例にならって答案用紙に記入すること。

(例) 101 県庁所在地はどれか。

- a 大宮市
- b 川崎市
- c 神戸市
- d 倉敷市
- e 別府市

正解は「c」であるから答案用紙の

101 a b c d e のうち c をマークして
101 a b c d e とすればよい。

- (2) 答案の作成にはHBの鉛筆を使用し、濃くマークすること。

良い解答の例……  (濃くマークすること。)

悪い解答の例……  (解答したことにならない。)

- (3) 答えを修正した場合は、必ず「消しゴム」あとが残らないように完全に消すこと。鉛筆の色が残ったり「」のような消し方などをした場合は、修正したことにならないので注意すること。

- (4) 1間に二つ以上解答した場合は誤りとする。

- (5) 答案用紙は折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注意すること。

1 一般外来における初診患者に対し、担当のA医師は、「こんにちは。Bさんですね。私は担当医のAです。」と話しかけた。

これに続くA医師の発言として適切なのはどれか。

- a 「確認のため住所、年齢、お仕事を述べて下さいますか。」
- b 「今日はどんなことでおいでになりましたか。」
- c 「手短かに症状を述べていただけますか。」
- d 「痛みはありますか。」
- e 「これまでどんな治療をされてきましたか。」

2 22歳の男性。耳鼻科で中耳炎と診断され、処方された抗菌薬を服用した。30分後に顔面の腫脹感と全身の瘙痒感とを自覚した。自力で来院したが、顔面の紅潮と腫脹、口唇部の腫脹および嘔声が認められ、胸内苦悶を訴えたのち嘔吐した。体温35.8°C。呼吸数24/分。脈拍110/分、整。血圧78/40mmHg。マスクでの酸素投与と静脈路確保を行った。

まず投与すべき薬剤はどれか。

- a アミノフィリン
- b エピネフリン
- c ニトログリセリン
- d フロセマイド
- e リドカイン

3 45歳の男性。眼球結膜の黄染に気付き来院した。画像診断で総胆管の完全閉塞を認める。

この病態でみられないのはどれか。

- a 皮膚の瘙痒
- b チアノーゼ
- c 灰白色便
- d 褐色尿
- e 肝腫大

4 48歳の女性。今朝から激しい頭痛と左の眼痛があり、恶心・嘔吐が出現したので救急車で来院した。最近、軽い頭痛と眼痛を感じたり、蛍光灯のまわりに虹のような輪が見えたりしていた。左眼の前眼部写真(別冊No. 1)を別に示す。右眼には異常はない。

まず点眼すべき薬剤はどれか。

- a 抗アレルギー薬
- b 抗菌薬
- c 麻酔薬
- d 緩瞳薬
- e 散瞳薬

別冊
No. 1 写 真

5 48歳の女性。天丼を食べた後に突然上腹部痛が出現したため来院した。右肩にも痛みがある。身長 148 cm、体重 58 kg。体温 37.6°C。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)。

腹部の診察において予想される所見はどれか。

- a 腹壁静脈怒張
- b 筋性防御
- c 肝腫大
- d 脾腫大
- e 腹 水

6 9歳の男児。3日前から 37~38°C の発熱があり、近医を受診したところ、末梢血白血球数 26,000 を指摘され精査の目的で来院した。1週前から左膝関節痛のため歩行が困難であった。顔面はやや蒼白で、眼瞼結膜は貧血様である。両側頸部に小豆大のリンパ節を 3 個ずつ触れる。右肋骨弓下に肝を 3 cm 触知し、左肋骨弓下に脾を 4 cm 触知する。

この患児にみられる身体所見はどれか。

- a 紫 斑
- b 鼓 腸
- c 腹 水
- d 浮 腫
- e 運動麻痺

7 80歳の男性。発熱、咳嗽および喀痰を主訴として来院した。2年前に脳梗塞で倒れてから右片麻痺があり、また、飲食の際にむせることが時々あった。3日前から 39°C に達する弛張熱、咳嗽および膿性痰がみられるようになった。昨日から食欲低下が顕著で、飲水も不十分となった。本日は朝から尿が出ていない。

この患者で存在する可能性が低い病態はどれか。

- a 脱 水
- b 肺 炎
- c 高血圧症
- d 過敏性腸症候群
- e 腎不全

8 40歳の男性。通勤途中の電車の中で、突然、周囲がグルグル回って見えるようになり、体のバランスが保てなくなった。更に嘔気、耳鳴および耳閉感も出現したので、救急車で来院した。今回は4回目の発作で意識消失はない。

この患者にみられる身体症候はどれか。

- a 発熱
- b けいれん
- c 眼振
- d 咳嗽
- e 過呼吸

9 24歳の女性。悪心と嘔吐とを訴えて来院した。生来健康。最終月経は2か月前であった。身長160cm、体重52kg。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体(-)。

直ちに行うべき検査はどれか。

- a 妊娠反応
- b 便潜血反応
- c 注腸造影
- d 頭部CT
- e 脳脊髄液検査

10 58歳の男性。病歴と身体所見とから虚血性心疾患の可能性が50%と予測された。運動負荷心電図検査を行ったところ、2mmの水平型ST低下が認められた。

この検査所見が虚血性心疾患を検出するまでの感度が60%、特異度が80%であるとすると、この患者が虚血性心疾患を有する可能性はどれか。

- a 55%
- b 75%
- c 90%
- d 95%
- e 99%

11 55歳の男性。夜間、突然の呼吸困難を訴え救急車で来院した。5年前に拡張型心筋症の診断を受けている。喘鳴が著明で泡沫状ピンク色の喀痰排出があった。マスクで酸素投与(6l/分)を開始した。呼吸数23/分。脈拍124/分、整。血圧98/78mmHg。動脈血ガス分析 pH 7.28、PO₂ 68 Torr、PCO₂ 52 Torr。胸部エックス線写真は両側肺門部を中心に蝶形陰影を呈する。

まず投与すべき薬剤はどれか。

- a アルブミン
- b 重炭酸ナトリウム
- c プロプラノロール
- d プレドニゾロン
- e フロセマイド

12 63歳の男性。肺悪性腫瘍の化学療法中に、激しい頭痛と嘔吐とがあり、更にけいれんも起こした。眼底検査で乳頭の腫脹を認める。

直ちに行うべき検査はどれか。

- a 脳波
- b 頭部CT
- c 腰椎穿刺
- d 血清生化学
- e 胸部エックス線撮影

13 65歳の男性。腸閉塞のため中心静脈栄養を施行中、突然高熱を発した。カテーテル刺入部位に軽い発赤を認める。胸部エックス線写真では異常がない。

直ちに行うべきことはどれか。

- a 尿の培養
- b 鼻腔の細菌検査
- c カテーテルの抜去
- d 刺入部位の消毒
- e 副腎皮質ステロイド薬の投与

- 14 20歳の男性。化学実験中に塩酸がはね、右眼に飛入し来院した。まず行うべき処置はどれか。
- a 多量の生理食塩液で洗浄する。
 - b 水酸化ナトリウム液で洗浄する。
 - c 散瞳薬を点眼する。
 - d 抗菌薬含有眼軟膏を塗布する。
 - e 非ステロイド性抗炎症薬を投与する。
- 15 45歳の男性。突然の会陰部に放散する右側腹部痛のため救急車で来院した。意識清明。体温 36.8°C。脈拍 96/分、整。血圧 154/72 mmHg。眼瞼結膜に貧血はない、眼球結膜に黄疸も認めない。尿所見：蛋白(±)、ビリルビン(-)、潜血 2+、沈渣に赤血球 5～10/1 視野、白血球 1～2/1 視野。血液所見：Hb 16.8 g/dl、白血球 10,000、血小板 28万。直腸診で得た便の潜血反応は陰性。この患者にみられる身体所見はどれか。
- a 両側下肺野の湿性ラ音聴取
 - b 肺肝境界の消失
 - c Blumberg 徴候陽性
 - d 右肋骨脊柱角部叩打痛
 - e 右大腿動脈拍動の減弱
- 16 20歳の女性。動悸と体重減少とを主訴として来院した。食欲は旺盛である。脈拍 118/分、整。血圧 134/58 mmHg。皮膚は潤湿し、手指の振戦を認める。この患者にみられる症候はどれか。
- a 巨大舌
 - b 顔面浮腫
 - c 甲状腺腫
 - d 便秘
 - e 血尿
- 17 53歳の男性。3か月前からの上腹部の鈍痛と軟便とを訴えて来院した。25歳から1日平均約3合の日本酒を毎日飲酒している。身長 162 cm、体重 52 kg。血圧 132/74 mmHg。腹部は平坦で心窓部に圧痛がある。腹部 CT で脾に石灰化像を認める。
- 生活管理上最も重要なのはどれか。
- a 水分制限
 - b 塩分制限
 - c 高エネルギー食摂取
 - d 禁酒
 - e 運動禁止
- 18 50歳の男性。不眠と全身倦怠感とを訴えて来院した。3か月前からの食欲不振と3kgの体重減少があり、2か月前に近医を受診して精査(胃内視鏡、大腸内視鏡、腹部超音波検査、腹部 CT)を受けたが異常がないと言われた。最近では仕事にも集中できず、「このまま死んでしまいたい。」と訴えている。
- この患者への対応として適切でないのはどれか。
- a 患者の背景を尋ねる。
 - b 前医に検査と治療との内容を問い合わせる。
 - c 仕事を休むように勧める。
 - d 元気を出すように励ます。
 - e 薬物治療を開始する。

19 58歳の男性。30年間のアルコール多飲歴がある。仕事中の事故による下肢の骨折のために救急入院した。手術は無事に終了したが、術後2日目の夜に回復室のベッドから突然起き上がり、点滴を自己抜去した。何かをつかまえる動作をふるえる手指で繰り返し、状況を説明しても見当外れの返事しか返ってこない。

この病態でみられない症状はどれか。

- a 意識障害
- b 痴呆
- c 不安
- d 幻覚
- e 睡眠障害

20 72歳の男性。下腹部の緊満感を訴え来院した。3年前から夜間に排尿のため起きるようになり、半年前からは排尿困難が増強していた。昨夜から尿意はあるが尿が1、2滴しか出ないという。下腹部は小児頭大に膨隆し、軽い圧痛がある。体温36.4°C。脈拍80/分、整。血圧140/82mmHg。血清生化学所見：尿素窒素32mg/dl、クレアチニン2.5mg/dl、Na 137mEq/l、K 4.5mEq/l、Cl 105mEq/l。

適切な処置はどれか。

- a 輸液
- b 利尿薬投与
- c 導尿
- d 浸腸
- e 血液透析

21 43歳の男性。会社の定期健康診断で肝機能異常を指摘されて来院した。身長166cm、体重82kg。喫煙は1日約10本。飲酒は月1、2回。常用薬なし。空腹時血糖110mg/dl、GOT 80単位(基準40以下)、GPT 140単位(基準35以下)、アルカリホスファターゼ230単位(基準260以下)、γ-GTP 60単位(基準8～50)。HBs抗原陰性、HCV抗体陰性。

まず行うべき生活指導はどれか。

- a 禁煙
- b 禁酒
- c 安静
- d 高蛋白食摂取
- e 摂取エネルギー制限

22 48歳の男性。5年前から糖尿病で近医に通院していた。最近、血糖コントロールが悪化したため、紹介されて来院した。中間型のインスリン製剤を1日に2回注射することとした。

正しい注射部位はどれか。

- a 皮内
- b 皮下
- c 筋肉
- d 静脈
- e 動脈

23 52歳の男性。今朝から腹痛があり、次第に増悪するので来院した。2年前から狭心症に対してカルシウム拮抗薬とアスピリンとを投与されている。腹部エックス線単純立位写真で腸閉塞症と診断され、緊急手術を受けることとなった。

この患者で術中・術後に生じる可能性が最も高いのはどれか。

- a 高熱
- b 出血
- c 高血糖
- d 高カルシウム血症
- e 腎不全

24 18歳の男子。交通事故で頭部外傷を受けて救急搬送された。意識レベルの低下と呼吸不整とを認める。

最初に行うべき救急処置はどれか。

- a 気道確保
- b 胃管挿入
- c 静脈路確保
- d 創傷処置
- e 導尿

25 17歳の女子。2日前から両眼の充血、多量の眼脂および流涙を認め来院した。両側の耳前リンパ節の腫脹と疼痛とを認める。学校で何人かの友達が同様の症状を訴えているという。

この患者への説明で適切でないのはどれか。

- a 「コンタクトレンズはしないようにして下さい。」
- b 「目やにや涙を拭いたハンカチは煮沸消毒して下さい。」
- c 「目やにや涙が出なくなるまでは学校を休むようにして下さい。」
- d 「お風呂には家族より先に入るようにして下さい。」
- e 「バスタオルや手拭いは自分専用のものを使うようにして下さい。」

26 67歳の男性。右半身麻痺のために入院した。約10年前から高血圧症と2型糖尿病とで通院治療中であった。降圧薬とインスリンとの投与を受けている。身長170cm、体重75kg。脈拍64分、整。血圧160/104mmHg。意識は清明。身体所見では右半身の弛緩性麻痺を認めるが感覚障害はない。他には異常を認めない。血清生化学所見：空腹時血糖182mg/dl、クレアチニン0.9mg/dl、総コレステロール250mg/dl、トリグリセライド160mg/dl(基準50～130)。

この患者に対する主治医の対応で適切でないのはどれか。

- a 看護婦と患者教育を分担する。
- b 栄養士に食事指導を依頼する。
- c 薬剤師に服薬指導を依頼する。
- d 理学療法士にリハビリテーションを依頼する。
- e 保健婦に退院に向けて家の援助を依頼する。

27 45歳の男性。25歳のときに精神分裂病を発症し入院した。その後、入退院を繰り返し現在4回目の入院中である。最近は症状が安定しており、身体的疾患もない。独身で親族もいない。

社会復帰に有用でないのはどれか。

- a 服薬指導
- b 住居の保障
- c 仕事の保障
- d 人的サポート
- e 物的サポート(福祉機器)

28 65歳の男性。糖尿病、高血圧症および肥満で入院中である。短期間の予定で入院したが、療養態度はよくなく、血圧や血糖のコントロールは不良で長期入院となっている。運動療法も行っていたが、ある日昔の友人が半身麻痺で運動療法をしているのに会った。このころから病棟の看護婦に文句を言うことが多くなり、数日後夕食に髪の毛が混っていたことを機に怒りが爆発した。病棟がパニック状態になるほどの大騒ぎになった。婦長が謝ったが、怒りは治まらない。

この患者への対応で適切なのはどれか。

- a なぜ怒っているのかを尋ね、不安の原因を引き出す。
- b 叱責する。
- c 個室に収容する。
- d 精神科を受診させる。
- e 強制退院させる。

29 36歳の男性。4人家族(妻32歳、子供9歳、7歳)。糖尿病と診断され、3年経過した。糖尿病のコントロールは不良である。治療を進めるために家族の協力を得る必要がある。

考慮する必要性が最も低いのはどれか。

- a 調理担当者の意欲
- b 家族内の人間関係
- c 家族の糖尿病に対する理解度
- d 家族の食事療法に対する考え方
- e 子供の学校の成績

30 58歳の男性。会社社長。本態性高血圧症と2型糖尿病とで2週に1回の外来通院治療中である。喫煙30本/日、日本酒2合/日。これまでに疾患や食事療法の説明を受け、合併症のこわさも知っている。また、それぞれに対する薬物療法も受けている。血圧164/100mmHg。空腹時血糖220mg/dl、HbA_{1c}10.4%(基準4.3~5.8)。

医師の対応として適切でないのはどれか。

- a もう一度糖尿病と高血圧症について詳しく説明する。
- b 通院間隔を長くする。
- c 患者の考えや希望に基づいて対策を話し合う。
- d 家族とともに食事指導をしなおす。
- e 教育入院を勧める。

次の文を読み、31、32 の問い合わせに答えよ。

29歳の妊婦。妊娠39週。陣痛のため来院した。

現病歴： 無月経を主訴に近医を受診し、妊娠8週と診断された。その後、定期的に妊婦健康診査を受けており、異常はないと言われていた。妊娠34週になり、里帰り分娩の目的で当院を紹介された。当院で4回の定期健康診査を行ったが異常はみられなかった。

妊娠・分娩歴： 25歳時に初めて妊娠したが9週で自然流産した。

既往歴： 特記すべきことはない。

来院時所見： 身長158cm、体重68kg。体温36.5℃。脈拍84/分、整。血圧130/70mmHg。子宮底長35cm、5分おきに子宮収縮を触知する。子宮口3cm開大。破水を認めない。

来院後の経過： 陣痛室に入室の上、分娩経過を観察した。胎児心拍数陣痛図所見では、陣痛間欠は5分、発作は40秒。心拍数基線は140～150/分。子宮収縮に伴う徐脈はなく、一過性頻脈が認められた。その後も同様の所見が続き、12時間後に自然経産分娩となった。児は成熟女児で直ちに啼泣し、異常を認めない。

31 児に最初に行うのはどれか。

- a 背部の刺激
- b 酸素の投与
- c 羊水の清拭
- d 身長の計測
- e 体重の計測

32 分娩後の母親に直ちにチェックすべき項目に含まれるのはどれか。

- a 血圧
- b 心拍数
- c 出血量
- d 子宮収縮
- e 乳汁分泌

次の文を読み、33、34の問い合わせに答えよ。

23歳の女性。会社員。初診時の医療面接で以下のような会話がなされた。

医師① 「どんなことでお困りですか。」

患者 「頭が痛くて困っているので診てもらおうと思って来ました。」

医師② 「そうですか、じゃーその頭痛がいつから始まって、その後どうなったか詳しく教えて下さい。」

患者 「ええ、高校生のころから時々頭が痛くなっていたのですが、最近数か月は度々痛くなって、ひどいときには会社を休まなければならないほどです。そんなときには嘔吐もします。」

医師 「会社を休まなければいけないんじゃ、大変ですね。」

患者 「ええ、もう何とか治して欲しいと思います。」

医師 「そうですね、できるだけのことはしたいと思います。」

患者 「先生、私何か悪い病気にでもなったのではないかと思う。」

医師③ 「心配なことでもあるのですか。」

患者 「例えば、脳腫瘍とか。」

医師 「脳の悪性腫瘍を心配しておられるのですね。」

患者 「…………。」

医師④ 「じゃー、次に頭痛の性状と部位と随伴症状について教えて下さい。」

患者 「…………。」

医師⑤ 「頭痛はズキズキするような痛みですか。」

患者 「ええ、そうです。」

33 この医師の質問のうち closed question はどれか。

- a 医師① 「どんなことでお困りですか。」
- b 医師② 「その頭痛がいつから始まって、その後どうなったか詳しく教えて下さい。」
- c 医師③ 「心配なことでもあるのですか。」
- d 医師④ 「じゃー、次に頭痛の性状と部位と随伴症状について教えて下さい。」
- e 医師⑤ 「頭痛はズキズキするような痛みですか。」

34 この医療面接の評価で正しいのはどれか。

- a 医師がもっと主導権をもって話を進めるべきである。
- b 難解な言葉は使われていない。
- c 共感的態度で接している。
- d この仕方では信頼関係が難しくなる。
- e 調査的態度で接している。

次の文を読み、35、36の問い合わせに答えよ。

60歳の女性。発熱と腹痛とを主訴に午前1時に救急車で来院した。

現病歴：50歳ころから血圧が高いと言われたが、多忙のためにきちんとした管理をしてこなかった。また数年前から脂っこい食事を食べだ後、心窓部から右季肋部にかけての重苦しさを自覚し、市販薬を日々服用していた。数日来右季肋部にいつもより強い間欠的な痛み、背部痛および嘔気を自覚するようになった。昨夕からしほられるような痛みとなり、ガタガタ震えた後40℃まで発熱した。

既往歴：特記すべきことはない。

家族歴：特記すべきことはない。

現症：小柄で肥満の傾向。意識は清明。体温39.6℃。脈拍104/分、整。血圧

116/88mmHg。

35 この患者で予測される身体所見はどれか。

- a 髖膜刺激症状
- b 口蓋扁桃腫大
- c 頸部リンパ節腫脹
- d 腹膜刺激症状
- e 多発性関節腫脹

36 誤っている対応はどれか。

- a 胸腹部エックス線単純撮影
- b 血清生化学検査
- c 血液培養検査
- d 腹部超音波検査
- e 腹腔穿刺

次の文を読み、37、38の間に答えよ。

45歳の男性。今朝起床時に右上腹部の激痛が突然出現したため救急車で来院した。

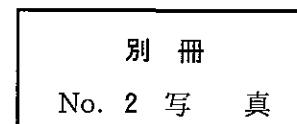
現病歴：約1か月前から空腹時に右上腹部痛を時々自覚するようになったが放置していた。

既往歴：1年前に十二指腸潰瘍で薬物療法を受けた。

嗜好：喫煙歴は20本/日を20年間。飲酒歴はビール1本/日を20年間。

現症：身長170cm、体重60kg。体温38.5°C。脈拍180/分、整。血圧120/80mmHg。

検査所見：血液所見：赤血球380万、Hb 11.0 g/dl、白血球11,000、血小板38万。血清生化学所見：総蛋白6.8 g/dl、アルブミン3.8 g/dl、尿素窒素38 mg/dl、クレアチニン1.3 mg/dl、GOT 40単位(基準40以下)、GPT 45単位(基準35以下)、アミラーゼ150単位(基準37～160)。CRP 3.0 mg/dl(基準0.3以下)。来院時の胸部エックス線写真(別冊No. 2)を別に示す。



37 この患者の腹部身体所見でみられないのはどれか。

- a 圧痛
- b 筋性防御
- c 腸雜音亢進
- d Blumberg 徴候
- e 肝濁音界消失

38 この患者で最も適切な処置はどれか。

- a 経過観察
- b 洗腸
- c 輸血
- d 副腎皮質ステロイド薬投与
- e 手術

次の文を読み、39、40の問い合わせに答えよ。

27歳の男性。救急車で搬送された。

現病歴：バイクで走行中転倒し、左側の胸部と腹部とを強打した。

既往歴：特記すべきことはない。

現症：身長 170 cm、体重 64 kg。体温 37.4 °C。呼吸数 54/分。脈拍 108/分、整。血圧 124/70 mmHg。意識は清明。触診で左胸壁に握雪感がある。左前腕に土砂の混入した挫創を認める。ズボンを切ると左大腿中央に擦過傷と軽度の皮下出血とを認める。

検査所見：尿所見：赤色調、潜血強陽性。血液所見：赤血球 378 万、Hb 12.8 g/dl、Ht 37%、白血球 12,600、血小板 28 万。動脈血ガス分析(自発呼吸、room air) PO₂ 60 Torr、PCO₂ 42 Torr。胸部エックス線写真で左第 10 肋骨骨折、左気胸および左肺の虚脱を認める。また、左大腿部エックス線単純写真で左大腿骨骨折を認める。

39 この患者でみられる身体所見はどれか。

- a 左上肢脈拍微弱
- b 肺肝境界上昇
- c 左肺呼吸音減弱
- d 腸雜音亢進
- e 左大腿部連続性血管雜音

40 直ちに行うべき処置はどれか。

- a 気道確保
- b 胸腔ドレナージ
- c 導尿カテーテル挿入
- d 左上肢創処置
- e 左大腿骨骨折整復

次の文を読み、41、42の問い合わせに答えよ。

27歳の女性。体動時の息切れを主訴に来院した。

現病歴：2年前から健康診断で貧血を指摘されていたが、自覚症状がないために放置していた。1か月前から体動時の息切れと全身倦怠感とが増強するため来院した。月経に異常はない。

既往歴：特記すべきことはない。

現症：身長158cm、体重45kg。体温36.5℃。眼瞼結膜は貧血様。心尖部に2/6度の収縮期雜音を聴取する。肺の聴診所見は正常。腹部は平坦で、肝と脾とを触知しない。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)。便潜血反応陰性。血液所見：赤血球340万、Hb 7.8g/dl、Ht 27%、網赤血球15%、白血球7,600、血小板32万。血清生化学所見：総蛋白7.3g/dl、アルブミン4.1g/dl、総ビリルビン0.5mg/dl、LDH 260単位(基準176～353)、Fe 5μg/dl(基準80～160)、総鉄結合能423μg/dl(基準290～390)、フェリチン7ng/ml(基準20～120)。

41 この患者にみられる身体所見はどれか。

- a 蝶形紅斑
- b 口腔内アフタ
- c リンパ節腫脹
- d さじ状爪
- e 深部感覺異常

42 この患者に対する治療として適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b 鉄剤投与
- c ビタミンB₁₂投与
- d 葉酸投与
- e 蛋白同化ステロイド薬投与

次の文を読み、43、44の間に答えよ。

56歳の男性。会社役員。1週前からの軽い頭痛を主訴に来院した。

現病歴：3年前から毎年の健康診断で高血圧を指摘されていたが放置していた。

既往歴：特記すべきことはない。

嗜好：喫煙歴なし。飲酒歴はビール1本/日を30年間。塩辛い食事を好む。

家族歴：高血圧症なし。糖尿病なし。

現症：身長172cm、体重60kg。脈拍72/分、整。血圧182/120mmHg。皮膚やや湿潤。腹部に異常なく、神経学的にも異常はない。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血清生化学所見：空腹時血糖102mg/dl、総蛋白6.8g/dl、クレアチニン0.9mg/dl、総コレステロール220mg/dl、トリグリセライド180mg/dl(基準50～130)、Na 142mEq/l、K 4.4mEq/l、Cl 104mEq/l。

43 この患者に予想される胸部所見はどれか。

- a 肺肝境界の上昇
- b 呼吸音減弱
- c 心尖部拡張期雜音
- d Ⅱ音大動脈成分の亢進
- e 心膜摩擦音

44 この患者への対応として適切なのはどれか。

- a 放置してよいと話す。
- b 自宅で安静にすればよいと話す。
- c 摂取エネルギーを制限させる。
- d 治療せずに4週後来院させる。
- e 降圧薬投与を開始する。

次の文を読み、45、46の問い合わせに答えよ。

36歳の男性。排尿困難と発熱とを主訴に来院した。

現病歴：6年前モトクロス競技中に転倒し、胸腰椎移行部を骨折し、下半身不随となった。その後、車椅子に乗り、バスケットなどの運動をしていた。排尿は用手で可能であった。最近、時々高熱を発するようになり、排尿困難も強くなってきた。昨日から39℃前後の発熱が続いている。

現症：身長170cm、体重75kg。体温38.7℃。脈拍72/分、整。血圧128/80mmHg。両側肋骨脊柱角部に叩打痛がある。上腹部は平坦軟であるが、下腹部が少し膨隆している。

検査所見：尿所見：pH7.5、蛋白1+、糖(−)、潜血1+、沈渣に赤血球5~10/1視野、白血球無数/1視野、細菌3+。血液所見：赤血球450万、Hb14.0g/dl、白血球19,800、血小板23万。血清生化学所見：総蛋白6.8g/dl、クレアチニン1.3mg/dl、総コレステロール256mg/dl、GOT25単位(基準40以下)、GPT28単位(基準35以下)、LDH260単位(基準176~353)。CRP11.2mg/dl(基準0.3以下)。

45 行うべき処置はどれか。

- a 飲水制限
- b 下剤投与
- c 利尿薬投与
- d 抗菌薬投与
- e 膀胱穿刺

46 解熱した後、用手排尿では残尿量が400ml以上あるので、在宅自己導尿法を指導することになった。

指導として誤っているのはどれか。

- a 導尿前の手洗い
- b 陰部の消毒
- c カテーテルの洗浄・消毒
- d 1日1回の導尿
- e 尿の性状の観察

次の文を読み、47、48 の問い合わせに答えよ。

48 歳の男性。微熱と咳嗽とを主訴に来院した。

現病歴：2か月前から口渴感を自覚していた。1か月前から微熱、咳嗽および黄色の喀痰がある。

家族歴：父と母とが糖尿病。

現症：身長 175 cm、体重 75 kg。体温 36.9 °C。呼吸数 18/分。脈拍 80/分、整。血圧 130/72 mmHg。両側アキレス腱反射の減弱と両側下肢振動覚の軽度低下とを認める。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖 3+、アセトン体(-)。血液所見：赤沈 45 mm/1 時間、赤血球 405 万、Hb 12.5 g/dl、Ht 38%、白血球 5,600(桿状核好中球 5%、分葉核好中球 55%、単球 4%、リンパ球 36%)。血清生化学所見：空腹時血糖 306 mg/dl、HbA_{1c} 11%(基準 4.3 ~ 5.8)、尿素窒素 12 mg/dl、クレアチニン 0.6 mg/dl、総コレステロール 280 mg/dl、トリグリセライド 180 mg/dl(基準 50 ~ 130)、GOT 32 単位(基準 40 以下)、GPT 35 単位(基準 35 以下)、Na 140 mEq/l、K 4.0 mEq/l、Cl 102 mEq/l。CRP 0.6 mg/dl(基準 0.3 以下)。動脈血ガス分析(自発呼吸、room air)pH 7.43、PO₂ 79.0 Torr、PCO₂ 42.0 Torr。初診時の胸部エックス線写真(別冊No. 3)を別に示す。

別冊
No. 3 写 真

47 この患者の食事で制限するのはどれか。

- a 水 分
- b 食 塩
- c カリウム
- d 蛋 白
- e 総エネルギー

48 診断確定のためにまず行うべき検査はどれか。

- a 咳痰微生物検査
- b 呼吸機能検査
- c 胸部 CT
- d 胸部 MRI
- e 気管支鏡

次の文を読み、49、50 の問い合わせに答えよ。

72歳の女性。右膝関節の疼痛と腫脹とを主訴に来院した。

現病歴：2年前から長時間の歩行後右膝痛を自覚し、最近正座が困難となった。

10日前から右膝痛が増強し、歩行困難に続いて腫脹感も自覚するようになった。

既往歴：6年前に胆石の手術を受け、その後体重が10kg増加した。右膝には外傷歴はない。

現症：身長152cm、体重62kg。両膝はやや内反傾向で、右膝に関節水腫と軽度の屈曲制限とを認める。右膝関節内側に圧痛と屈曲時の異常音とを認める。

検査所見：血清生化学所見：総蛋白6.8g/dl、GOT 22単位(基準40以下)、GPT 30単位(基準35以下)。CRP 0.3mg/dl(基準0.3以下)。右膝エックス線単純写真で内側関節裂隙の狭小化と軟骨下骨の硬化像とを認める。外側の関節面には異常所見はみられない。

49 この患者に勧める生活指導で誤っているのはどれか。

- a 水泳
- b ジョギング
- c 体重コントロール
- d 重量物の運搬回避
- e 椅子使用などの洋式生活

50 この患者に対する治療で誤っているのはどれか。

- a 膝の伸展筋訓練
- b 膝の温熱治療
- c 膝サポーター使用
- d 非ステロイド性抗炎症薬の経口投与
- e 副腎皮質ステロイド薬の経口投与

◎ 下記の欄に受験番号および氏名を記入すること。

受 験 番 号	氏 名 (楷 書 で 書 く こ と)